

附

錄

歴代の幹事

(年次は卒業又は退學の年を示す。但し明治三十二年迄は學制上、正科、別科、高等科、及び大學部ありたれども、茲には其區別を記さず。)

年 次 氏 名

| | | | | |
|--------|--------|-------------|------------|-------|
| 明治二十二年 | 南摩綱夫 | 島津理左衛門 | 大正元年 | 中野榮三郎 |
| 明治二十五年 | 小南英策 | 明治三十七年 小泉浩 | 大正二年 平岡義 | |
| 明治二十八年 | 柴田美穂 | 明治三十八年 中村愛作 | 大正三年 山清水耕 | |
| 明治三十一年 | 平岡良助 | 明治四十年 箱田達磨 | 大正四年 飯澤山本忍 | |
| 明治三十二年 | 太島光四郎 | 明治四十一 年 吉田雄 | 大正四年 飯澤山本忍 | |
| 明治三十四年 | 平野勝次郎 | 佐野甚之助 | 大正四年 飯澤山本忍 | |
| 明治三十五年 | 須藤一郎 | 湯本芳三郎 | 大正四年 飯澤山本忍 | |
| 明治三十六年 | 柴田遊敬 | 盛田庄保 | 大正四年 飯澤山本忍 | |
| 金澤冬三郎 | 諸田一吉 | 大塚田三郎 | 大正四年 飯澤山本忍 | |
| 堀切善兵衛 | 堀切善兵衛 | 石渡泰三郎 | 大正五年 岛井邦泰 | |
| 永瀬松之輔 | 永瀬松之輔 | 大賀恒次郎 | 大正六年 岩崎清一郎 | |
| 瀧本太作 | 瀧本太作 | 大塚亮三郎 | 大正七年 岩崎清一郎 | |
| 大正七年 | 坂尾上泰次郎 | 大正六年 岩崎清一郎 | 大正七年 岩崎清一郎 | |
| 岩崎清一郎 | 中野繁清郎 | 東崎清郎 | 神崎清郎 | |
| | 森茂藏 | 井邦泰 | 井邦泰 | |
| | 藏一郎 | 舜郎 | 茂郎 | |
| | 義一郎 | 繁郎 | 作郎 | |
| | 一郎 | 清郎 | 己郎 | |

二 舊 部 員

(昭和七年十二月現在) (○は舊幹事×は死亡)

○ ○ ○ ○ ○ ○ 六段
吉 中 淺 阿 部 飯 塚
武 村 見 部 大 茂
吉 愛 淺 英 兒
雄 作 一 六

○ 平賀恒次郎
○ 石渡泰三郎
○ 中野榮三郎
○ 中野森藏
○ 清水耕作
○ 菅原浩
○ 岩崎清一郎

| | | |
|---|---|---------|
| ○ | 湯 | 本芳三郎 |
| ○ | 塚 | 牛久孝四郎 |
| × | 宮 | (舊姓五月女) |
| ○ | 部 | 本太作 |
| ○ | 箱 | 田達磨 |
| 田 | 田 | (舊姓藤崎) |
| 又 | 又 | 司 |

○ 山本忍己 塚本福治郎
○ 松岡山中駿吉 早川章次郎

山田菊雄
鶴淵毅
島泰次郎
小川虎之助
松本篤太郎
木村喜八郎
山川涉

| | |
|-------|-------|
| 大正九年 | 葉山健二郎 |
| 小山内久 | 森山健二郎 |
| 菅原剛 | 菅原剛 |
| 松永進 | 松永進 |
| 本篤太 | 本篤太 |
| 島一郎 | 島一郎 |
| 澤隆男 | 澤隆男 |
| 藤永金太郎 | 藤永金太郎 |
| 宮永金太郎 | 宮永金太郎 |

| | | | | | | | | |
|-------|------|-------|-------|-------|------|------|------|-------|
| 昭和二年 | 秋山萬芳 | 阿部原 | 阿部喜秀 | 木村喜八 | 阿部喜英 | 阿部英彌 | 阿部喜馬 | 長谷川大助 |
| 大正十四年 | 昭和二年 | 大正十三年 | 大正十二年 | 大正十一年 | 大正十年 | 大正九年 | 大正八年 | 大正七年 |
| 大正十一年 | 大正九年 | 大正八年 | 大正七年 | 大正六年 | 大正五年 | 大正四年 | 大正三年 | 大正二年 |
| 大正九年 | 大正七年 | 大正六年 | 大正五年 | 大正四年 | 大正三年 | 大正二年 | 大正一年 | 大正一年 |
| 大正八年 | 大正六年 | 大正五年 | 大正四年 | 大正三年 | 大正二年 | 大正一年 | 大正一年 | 大正一年 |

附
錄

○ 松井武一郎 宮永金太郎 針生五郎 菅原茂太郎 小原勝守 城田二郎 野田市太郎 小菅繁雄 德永秀夫 横山巖 竹内光一 古田武太郎 茂木邦吉 萩原達也 蟻木敏男 黒坂英智 木村義衛

[1]

附
錄

四

○堀切善兵衛

高
田
詩
集

西蜀

西林
記

丈井 旭

山岡吉之助

原
子
武
齋

福島舊姓

中
村
武
雄

下川健太郎

坂本治平

牧
賴
一
郎

卷一百一十一

卷二

白仁泰

永清松之輔

金澤冬三郎

堺
泰
吉

山川

鈴木 鐵太郎

伊豫田三郎
平沼亮三
峯岸鎮治
近岡源三
海東要造
永井信二郎
金子源一郎
守谷正毅
福澤駒吉
井上敏夫
神崎達二
東貞雄
井上彌之助
久德義夫
小林猪四郎
松本博

× × ○
崔池土吉岩坂曾高藤小山宗中關清中島重次窪田五月女光三
野屋崎倉木橋平泉崎(舊姓正)村信義邦雄雄市
燦梅義(舊姓正)尙德(三姓津守)浩郎純
鶴三雄路武重清篤眞浩郎

湯 尾 山 本 誠 一
地 七 郎 和 男
山 中 祐 吉
進 藤 茂 伊
東 野 雄 親
大 原 幸 太 郎
橋 口 良 吉 衛
白 方 梅 吉
上 杉 彌 一 郎
鳥 居 忠 雄
甲 斐 義 智
藤 原 惣 次 郎
吉 田 精 二
庄 野 英 樹
高 井 孝 一
鹿 正 夫

○ 大隅敏雄
佐々木平太郎
島田久亮
西澤久一郎
長谷川彌馬太

大隅 敏雄
佐々木 平太郎
島田 久亮
西澤 久一郎
長谷川 彌馬太
下村 良三
瀧川 純三
田中 健吉
堀尾 幸
村山 義一
磯部 義男
島 春
寺田 豊次郎
春日 政衛
萩原 芳雄
松崎 泰次郎
鈴木 政一
沖株 兼次郎

附

87

吉村萬喜三
中義貞(舊姓幸田)
吉本堂季吉
高田庫重
宮澤憲衛
水野亨
清水信一
森基一
葛原元武
平田次平
清水金次郎
高石浩
佐々木美長
渡邊義道
松崎隆
香下玄人
中村壯吉
宮地秀雄

x

X

× 濱田 吉堯誠一
大中圭介 藏
田中信藏
濱田 隆一
本多親宗
明石文治
松村松之助
中田忠治
松野和夫
小原善次郎
水島左造
山村安
吉岡修治
森中三
(舊姓千葉)
薄河西
本利三郎
太郎平

x

附
錄

福士吉雄
高梨尊雄
久留島健三郎
平賀千代吉
澤憲治
森原政
春松筒井研
桑原政
森原政
舟木^(舊姓吉年)
筒井研
岩崎彌二郎
後藤幹夫
田野元次
金子友八
水永誠
伊澤常三
後藤辰治
岩井茂
月成元
氣

齊藤義臣一馬、菅瀬廣瀬、伊藤文健、茂木信太郎、天田錦之助、染谷芳藏、森永義忠、佐藤米藏、平本六郎、植木義雄、山崎義賢、間中廣、武田正俊、岩崎清二郎、伊藤權、藤嘉一郎、坂平、佐藤嘉一郎、早川小精一

六

X

伊藤北隆美 鈴木清治 石居山本巖 薫安增潤一郎
高地萬里 岩達藤 昌高橋誠一郎
茂木三千藏 國頭佐三郎
細田福澤時太郎
鈴木忠輔
杉岡虎雄
湯河勝介
高橋元治

x

今關直木　飯塚滿　明榮　清昇　勝
森山來原　松尾卯之助
谷田一郎　篠田富士男
野崎喜代治　間部幸太郎
山口長一　鈴木恒太郎
阿部通治　田原重樹
外山三郎　山口六助
星野優治　森本勇三郎

X

植木下正平 穂積三雄 村上健兒 松永榮三 正田正男
平井次郎 齋藤平左衛門 島田哲次 伊藤勇吉 葛西道二郎
眞下政夫 大木俊夫 木下光男 伊藤太郎 河田藤雄
林野太郎 植木政次郎 吉澤竹治郎

岸荒木敏之賢夫
新藤嘉道一榮
市川誠勝遼
渡邊正勝
邊正勝遼
藤島嘉道一榮
市川誠勝遼
谷桑原忠助
櫻井越信行
村越信行
蛇川堅治
谷桑原忠助
大畠政次郎
武林由雄
武田英治
高橋初治
松田巖
二宮英治
廣田英治
二宮英治

8

○ C

一級（九一名）

級(九二名) 内山之成
向山昌治 久保勝之進
須藤久藏 高島一貫
木村徳太郎 柴田美穂
海江田準一郎 濱野門三郎
(舊名平八郎) 鎌田孝熊
神林光正 増倉一
少濃直三 岡田敬三
柳正野(舊姓清五郎) 溪源吾

七

島西原久米八須田卓二吉田兵藏前田誠一郎神吉英三白井善藏高橋貞作船越宏田中恕一竹雄音治本間保次郎塚田修二加藤蘆水鈴木元吉田沼富太郎中村隆一

附
錄

x

潮田勢吉、三隅治義、山本篠田理策、白鈴木正男、齋藤恒雄、山本澄江、相川平三郎、加集俊三郎、安部俊三郎、大久保彦一、田中豊禮、萩田亮士、田村達士、田達士、森中剛、岡富男、岡富男。

鈴木善次
石橋喜代治
薬師寺東洋治
岸伊宮岸伊鈴益大早谷増井
田藤田藤木賀田川中野
誠由勝勇欣保三郎達夫吉信
記比善次一

田中三郎 古瀬甲子郎 川端衛 吉田専三郎 水野進
古賀益雄 富樫一彦 間部米三 門脇文藏 仙波重雄
堀口明 田口 明 田中三郎 仙波重雄
市川桃太郎 平尾 豊一 豊一 濱洋治
五十嵐威彦 濱田洋治 大竹銳一 濱田銳一
大竹秀夫

-

八

堀江龍之輔 横村
杉山豊弘 鈴木幸吉
渡邊健藏 沈觀恒
長谷川篤 後藤孝
加藤六藏 佐々木善次郎
谷口秀佐 菅井孝
大倉秀之進 日東寺政男
澤原亮吉 青山貞三
浦邊景造 伏見正三

渡會德太郎

田中誠三

豊島山人

古谷治一

高橋重家

篠島治兵衛

須川雅

中西萬世

横井一郎

井畑正義

片山秀次郎

室野三郎

野崎誠一郎

金子尾誠一明

附錄

×

谷村純吉

田中又吉

小林實

佐藤寬倫

渡邊芳次

野村清松

北村克也

木下孫七郎

梅原泰造

伊庭政義

大倉操

名取洋之助

藪田元治

門野榮次郎

白石善四郎

三級（七六名）

高塙孝樹

日下一郎

西原九郎

佐脇泰雄

藤井貢

關根政雄

板倉隆吉

近藤浩

朝倉永三

伊庭政義

梅原泰造

木下孫七郎

北川五郎

井畑正義

田中久保

×

伊藤重郎

加藤多助

瀬川巖

遠口直次郎

杉浦壽作

守田尚記

田宮弘太郎

宮崎逸人

高橋政治

末益敬介

安川清三郎

岩泉榮太郎

牧口義矩

渡邊貞治

田鎖藤太郎

×

渡邊茂

市村繁次郎

山中福之助

高見澤廣作

石井俊三

高屋登

福原邦樹

古川治郎兵衛

石井央雄

渡邊澤吉

平松茂治

酒匂秀太郎

増田幸雄

西川貢

九

大江 完

廣田昌太郎

阿部泰介

磯邊義介

羽鳥忠久

初段（三十一名）

井原 力

清川 晃

飯田正治

古屋幸三

大山 元

中林久良

峰岸猛

關準

山本繁太郎

城崎榮之助

石井芳雄

永田幸雄

熊谷喜徳

山西和夫

澤 海東助

兼子辰夫

石塚貫之助

箱田玄輔

山内恒夫

土屋 喜久四郎

田中良平

千住榮一

大澤勇

乳井健一

附記

本附錄の舊部員及び現部員の名簿は、道場内に掲げある名札に據りて作製したのであるが、之に洩れたる部員もあり、又名前の間違つてゐるものもある。更に又時代の變遷にも拘らず、功勞ある大先輩にして昔のまゝの段級に留まつてゐる者も數くない。此等は追て改められなければならない。讀者幸に之を諒せられよ。

尙昭和八年に入りて變動ありたるものを示せば、左の如し。

○卒業生 上妻利男（五段）、沖革作（四段）、樋口良作（三段）、新堀昇三（二段）、峯岸弘次（二段）、中野英一（二段）、土屋喜久四郎（一段）、廣田昌太郎（初段）、大澤勇（初段）、八尾誠一（初段）、松本政雄（二級）、磯邊達郎（二級）、品田義治（三級）

○新任幹事 五島勇雄（二月新任）

○昇段者

六段へ 山中駿吉（舊部員）

五段へ 松田彌一郎、藤澤隆、柴田一能、黒坂義衛（以上舊部員）、上妻利男

四段へ 堤武男、伊藤傑、高木恒次郎（以上舊部員）、加藤靖夫、富田忠三、五島勇雄

三段へ 佐久間知三、大矢知金之助、武藤剛

二段へ 中野英一、土屋喜久四郎、羽鳥忠久、古屋幸三、熊谷喜徳

初段へ 八尾誠一、大澤克夫、秋山正、笛間猶興、岡島龍吾、山田正典、横田作彌

*

*

*

補遺

以上を以て『部史』は終つたのであるが、我が柔道部の發達史は決して之に盡きたとは言はれない。舊部員諸氏の腦裡には、或は筐底には、尙此他興味ある資料が藏されてゐることであらう。が併し、今は其等の悉くを詮索し網羅するの違がない。唯本史編纂締切後に入手したる断片的レコードを左に追記して置く。

（一）普通部部員の地方遠征

○大正八年一月の遠征

監督 松永進一、藤澤 隆

選手（大將）菅原 浩、（副將）茂木邦吉、塚本敬三、直木 榮、菅原 卓、阿部芳郎、阿部秀助、其他の諸氏

試合 對諏訪中學（一月七日）我が五將菅原（卓）氏敵の大將と引分。 對岐阜中學（一月十日）最後に大將同志の決戦

となり、菅原(浩)氏業有をとつて引分。對愛知一中(一月十一日)四將直木氏敵の大將と引分。對愛知四中

(一月十二日)三將塚本氏敵の大將を打取る。成績 ○×○○

○大正九年一月の遠征

監督 阿部英兒、阿部大六

選手 (大將) 山川 涉、(副將) 菅原 卓、阿部芳郎、城田一郎、阿部秀助等の諸氏

試合 對富田中學 我が四將城田氏敵の大將を屠る。對四日市商業 大將同志の接戦となり、遂に引分(當時敵の大將は昭和四年の天覽試合に選出された山中良一氏であった)。對愛知一中 三將阿部(芳)氏敵將を殲す。

成績 ○×○

(二) 全國中等學校柔道試合

大正八年十一月二日、東京高等師範の道場に於て催された第一回全國中等學校柔道試合に於て、我が普通部の選手は抜群の成績を以て優勝した(採點法に據る)。其の戦績左の如し。

選手 (大將) 山川 涉、菅原 卓、阿部芳郎、城田二郎、大石宰平の五氏

試合 (第一回) 對新潟中學 山川氏勝、他四名引分。 (第二回) 對赤坂中學 菅原(卓)氏負、他四名勝。 (第三回) 對

横濱一中 城田氏引分、他四名勝。(城田氏の相手は後に塾に入つた蜷木敏男氏であつた)。 (第四回) 對廣陵中

學 山川氏負(相手は後に早稻田大學に入つて勇名を馳せた伊東文藏氏)、菅原(卓)氏引分(相手は後に水産講習所に入り、對四校聯合勝負に於て聯合軍の大將又は副將を勤めた三浦滋雄氏)、阿部(芳)、大石の兩氏は勝、城田氏は引分。(第五回決勝戰 對甲府中學 城田氏引分、他四名勝)。

(三) 英國皇太子殿下御前稽古

大正十一年四月十八日日比谷公園に於て、當時御來朝あらせられた英國皇太子殿下に柔道の模範稽古を御覽に供することとなり、都下の諸校より代表選手八名宛出場して稽古をなした。我が柔道部の選手及び組合せは左の通りであつた。
四段阿部大六—三段菅原浩、三段木村喜八郎—三段山田菊雄、四段淺見淺一一三段安藤徳太郎、四段阿部英兒—三段福田與志三郎。此日抽籤の結果、阿部(大)氏と菅原氏の組が殿前の直前に於て稽古をなすの光榮に浴した。

(四) 阿部英兒氏の試合記録

阿部氏が四段になつたのは大正八年十月二十六日、その前後に於て後日斯界に勇名を轟かした幾多の巨豪と戦つて、多くは簡単に之を破つてゐる。その中二三の例を摘記すれば——

一、大正七年十一月二日、高工の柔道大會に於て五人掛をなし、その全部を抜いたが、四人目は後に日本選手權を獲得した二宮宗太郎氏であつた。

二、大正八年の秋講道館紅白勝負に於て、敵の大將であつた早大の豪の者石黒敬七氏(當時四段)と取組み、血戰の後遂に引分。(石黒氏はその前に二人を容易に片附けたのであつたが、阿部氏の堅壁は破れなかつた。)
三、大正八九年の頃、早稻田大學の柔道大會に出場して、早大の選手坂井(一段)、富田(二段)、永島(二段)、鷹崎(三段)、安岡(三段)の五人掛をなし、拂腰、小内刈、拂腰、拂腰、大外刈を以て、悉く之を難ぎ倒した。右の中鷹崎氏は後に日本選手權を得た剛勇の士である。

附 錄 (終)